



第222号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長
岡田 哲夫
編集人 会報編集委員長
宮坂 ゆかり
印刷所 須坂新聞社

「支え、支えられて」

上高井教育会理事長 岡田 哲夫



本年は、上高井教育会が上高井郡私立教育会として発足してから百三十年の節目を迎える年であります。

五十八名の会員で出資した上高井教育会であり、教育会館に掲げられております「不易流行」の精神の基に、脈々と引き継がれてまいりました。「子どもたちに力をつけたい」「自分を高めたい」という職能向上の思いと、「仲間と学び合いたい」という協働の思いが、「不易」の根底を成す部分だと思えます。

導の仕方も変化しております。しかし、教師としての職能向上の思いは変わらぬ先輩から後輩へとバトンリレーされてきました。また、私は初任の頃、教育会の先輩に誘われて、「親鸞の哲学」について学ぶ機会がありました。当時はテキストの言葉の意味が難しくよく分からないう状態でしたが、読書会で解説していただいたり、講演会に連れて行っていただいたりする中で、少しずつ理解できるようになりました。そこで学んだことが、その後の心の支えとなり、教師生活の中で幾多の困難もありましたが、乗り越えることができました。困ったことがあると先輩を訪ね相談に乗っていただくことも何回もありました。教育会のよさは、会

員同士が「支え、支えられる」として、三十年を越える職業人生を全うすることができることだと実感しております。同年齢だけではなく、先輩や後輩の間がいてということ、素晴らしいことでもあります。



さて、本教育会は、平成二十五年の四月に一般社団法人「上高井教育会」となり、「上高井の学校及び地域の教育発展に貢献すること」を目的とし、諸事業に取り組んでおります。会員だけではなく、公益性を図る努力をしていることも「流行」の一面かと思えます。

職能向上のための研究委員会は、研究課題であります「子どもと共に創る授業」を目指し、原点に立ち戻るという意味で、定時総会において、伏木久始先生にご講演いただきました。これから求められる教育の方向と私たちの研究の趣旨の方向は同じでありますので、自信をもって主体的に研究を深めてまいります。また、創立百三十周年記念夏期講演会として、戦場カメラマンの渡部陽一さんの講演を計画しております。「今世界でどんなことが起こっているのか、そして私たちは何ができるのか」、講演を通して広い視野に立って考えられればと願っております。他からの指示ではなく、主体的に職能向上に取り組む場が教育会にあります。加えまして、協働で取り組むということも今後の教育活動のキーワードとなります。講演会や諸事業を通して、地域や保護者の皆様方と学校や地域の課題を共有し解決策を考え合ったり、同好会の活動を通して、共に楽しんだり親交を深めたりすることも公益性に関わるよさかと思えます。「支え、支えられながら」私たちに与えられた使命を共に全うしてまいります。(高山中)

教育会だより

- 4・1 役員選出公示
2 第一回学校代表者会
3 信教代議員選挙
8 第一回理事会
10 教育会会計監査会
17 研究委員長会
24 第二回理事会
28 第二回学校代表者会
5・1 研究総委員会・研究委員会・同好会世長会同好会発足(常盤中)
12 教研学校代表者会
16 一般社団法人上高井教育会定時社員総会
○平成27年新理事の承認
○平成26年度決算の承認
○定款の変更
○会員意見発表
須坂小関谷敏教諭
「英語教育推進リーダー」中央研修で学んだこと
○講演 伏木久始先生
「授業の省察からとらえる子どもの学び」
20 上高井賛助会総会
22 新任者教育懇談会
26 研究推進委員会
6・3 第三回理事会
5 第三回総会
19 同好会②
7・10 上高井教育会報第222号発行
11 同好会③
17 研究委員長会

# 「子どもと共に創る授業の省察的実践」を

## 研究委員会委員長 小嶋 保明



この研究委員会の目的は、私一人

人の職能の向上、教師の専門性を高めるためのものであり、研究の基礎を培い、教育実践について研究を推進し教育の充実発展に努めようとするものであります。この精神は、今年百三十周年を迎える上高井教育会の大きな礎となっています。

学びの中、またはふり返りの中から抽出する。という「五つの省察の窓」を示していたいただきました。私たちは、自身の授業づくりと学習指導を「五つの窓」で省察することを通して、子どもの自己学習能力の育成につながる授業を行っていくことが大事であると考えます。

各委員会では、学ぶ側の論理に立脚し「教師は何を教え、何

- ①単元の学習指導に先んじて、子どものレディネスを把握する。
- ②単元の到達目標を子どもと共に共通理解する。
- ③どのような方法を選んで取り組むか子どもと考え合う。
- ④目標に照合し、成果と課題を子どもと共に分析する。
- ⑤次時の学習課題を子どもの



を子どもに考えさせるか」を明らかにし、子どもと共に授業力向上につながる実践的な研究を進め、確かな学力の伸長を目指してほしいと願っています。

(仁礼小)



### はじめに

本校の生徒会活動で、大切にしているもののひとつにボランティア活動があります。「OSP」と名付けて各委員会が何らかの形で取り組んでいます。

「OSP」とは、「相森スマイルプロジェクト」の頭文字をとったもので、ボランティア活動を通して笑顔の輪を広げようということを始められました。

「OSP」は三つの柱から構成されています。①地域に笑顔を！(福祉施設との交流、ゴミ拾いなど)②被災地に笑顔を！(豊間中学校との交流)③アフガニスタンに笑顔を！(ランドセル募金です。以下に取り組みの様子を紹介します。

### 二 OSPの実際

①地域に笑顔を！(人権・給食・編集・JRC委員会担当)  
夏休み中に地域の福祉施設でボランティア活動を実施しています。

②中央児童センター夏祭りボランティア  
ヨーヨーや金魚すくい、御輿かつぎにうちわ作りなど、地域の子どもの笑顔をいっぱいあふれました。

③須坂やすらぎ園交流&清掃ボランティア  
校歌合唱の披露、風船パレードで交流を深め、おしいちゃんやおばあち

やんも大ハッスルでした。また、施設内の清掃も行いました。  
○ひだまり作業所・ワークハウスわらしべ交流ボランティア  
ペットボトルを利用して輪投げやボーリングをしたり、校歌合唱を披露したりしました。

### ○回収活動

牛乳パックを回収してひだまり作業所へ送り活動資金にしてもらっています。また、地域に住む一人暮らしのお年寄りの方宛に手紙を書き、お弁当と一緒に自宅に届けていたたいしています。手紙には元気が出たり喜んでいただけるようなメッセージを書きます。

こういった地域との交流は、本校生徒が先方へ出向くだけではなく、本校の学校行事である運動会や音楽会に招待して来ていただき、一緒に体を動かしたり歌を歌ったりしています。この活動を通して生徒の間にも笑顔が広がりました。

### ②被災地に笑顔を！(図書・園芸委員会担当)

平成23年3月11日に起きた東日本大震災と翌日の長野県北部地震。本校生徒会はいち早く義援金募集を開始しました。その後、何か被災地の中学生の力になればと、交流が続いています。現在は、学校の花壇で採れた種を福島県の豊間中学校に贈っています。また、家にある文庫本を持ってきてもらい、被災地に贈る活動も始めました。

### ③アフガニスタンに笑顔を！(本部・代議・学芸・生活・購買委員会担当)

平成21年に生徒とPTAが一体となって初めてランドセルをアフガニスタンへ贈りました。これは、NGO法人であるジョイセフという団体を通して、日本の小学生が使い終わったランドセルを、アフガニスタンの子どもたちに贈ろうという運動です。平成24年には他の市内三中にも声をかけ、250個余りのランドセルを集めることができました。また、ランドセル1個につき18



00円の輸送費が必要なため、募金活動や書き損じハガキ集め等にも取り組まれました。この活動は昨年五年目を迎えます。ジョイセフからも高い評価を受け、5月に本部から担当者が本校へ来校し、講演会を実施するまでになりました。

### 三 OSPを通して

詳細はジョイセフのホームページに掲載されています。  
交流活動に参加した生徒の感想です。「今回の交流では施設の窓ふきと歌を歌いました。窓ふきではすべと歌をピカピカにすることができました。働いている方たちに『ありがとう』と言ってもらってうれしかったです。歌は『校歌』と『翼をください』を歌いました。感動して泣いてくれる方もいらっしゃって、すごくうれしかったです。交流が充実したものになってよかったです。」

年々、交流活動へ参加する生徒の数は増えています。交流活動を通じて笑顔の輪が広がることが、自分が誰かの役に立てていること、よきこびにつながります。見知らぬ国の子どもたちの笑顔のために活動することは、国際理解教育だけでなく、生徒たちの自尊感情を高め、優しい心を育んでいます。

地域から相森中の生徒はよく挨拶をすると言われます。人との関わりを自分から進んで持つことは、自信に繋がっているあらわれだと思えます。これからもボランティア活動を大切にしていきたいと思います。

(黒岩 龍也)

# 主体的な学びの場 出会いとつながりの場に

同好会会長 竹前 傳 藏



平成九年。当時、英語同好会がなく、新しい世界に飛び込んでみようと思ひ、哲学同好会に入会。発足会当日、集まったのは二人だけ。「私が世話係、あなたが同好会長！」と励まされ、賛同してくれそうな先生方に

私が初めて同好会に入会したのは、帰郡した

声をかけ、なんとか十三人を集めて同好会をスタートさせました。一年目は、太田美明先生(当時、信濃教育会顧問)に、二年目からは須坂市出身の竹内整一先生(当時、東京大学文学部教授)に講師をお願いし、講演会を開催。以来、竹内先生との学習会が昨年まで続いてきた、この出会いとつながりに、心から感謝です。

平成十九年からは、子どもの

## 英語同好会の発足

英語同好会長 山 崎 史

今年度、十六名の会員により、英語同好会が発足しました。

二年前の東京オリンピックの決定を機に、今、英語教育は「グローバル化」に対応した新しい時代を迎えています。平成三十年より、小学校高学年では「教科」として、「週三コマ程度」の英語の授業が実施されます。小学校中学年では「学級担任を中心」に「活動型」で「週一〜二コマ」の英語の授業が実施され、中学校では「授業

は英語で行うことを基本」とするようになっていきます。

「外国語活動で使える教室英語を練習したい」「絵本の読み聞かせは英語でどうやれば良いだろう」「楽しいゲームや活動を紹介してほしい」など、これから私たちが現場で直面するであろう内容等について、幅広く学びあっていきたいと考えています。

まずは、地域のゲストハウス、オーナーの方を講師に迎え、

本研究会の世話係を仰せつかり、今までの自分には無かった絵本の世界と出会うことができました。この時出会った絵本で、中学生に何度か読み聞かせを行うことができました。

今年、「英語に関する研修の場」と、十六名の先生方の熱と想いがつながり、英語同好会を立ち上げました。平成九年以来、十八年目の願いの実現です。

上高井教育会のそれぞれの同好会が、先生方、地域の方々の「主体的な学びの場・出会いとつながりの場」となることを、心からご期待申し上げております。

(旭ヶ丘小)

国際理解について考える会を計画しています。終了後には、



会員同士の親睦もはかりたいと考えられています。

郡研究委員会とも連携し、「グローバル化」に対応できる研修の場を設定していきたいと

思います。

(常盤中)

### 本校の宝 66

#### 徳潤身

日滝小学校は、明治七年に潤身学校と称し、日滝寺に創立された。

潤身学校のいわれ

「大学伝六章」(抄)

富潤屋 富八屋ヲ潤シ 豊かな財産は、自然にその家をりつぱにするように

徳潤身 徳八身ヲ潤ス 徳を修めれば、自然にその人の身もりつぱになり

心広体胖 心広ク体胖ナリ 心はひろびろと広くなり身体はいつもゆったりするものである。

故君子必誠其意 故二君子必ス 其ノ意ヲ誠ニス

このように心の中にあるものは外に表れるものであるから、人は誠実に徳を修めるべきである。

明治十二年に建御名方神社境内の五百坪を校地に充て新校舎が落成となる。以後約百年にわたり、この地に建て続けられた校舎は、昭和五十五年四月に現在の地に新築移転

された。

この時を記念して地域の多くの方々の真心で「徳潤身」と刻まれた記念碑が完成し、現在に至っている。



また、昭和六十三年からの工事で校舎北側に作られた自然林も、「潤身の森」と名づけられ子どもたちの憩いの場所となっている。

校門を入ったすぐ右側に建てられた記念碑は、本校の宝として、日々子どもたちの成長を見守り続けている。

(依田 周二)

# 三学期末に 完成した学級目標

## 藤代あゆみ

私は学級担任をする際、クラス運営に「必ず一人一人が関わる」「笑顔が絶えない」ということを意識しています。毎年、年度当初に立てる学級目標もその一つです。三年生の担任だった昨年度は、各自が目標を意識し続けられるよう、掲示する学級目標の完成を三学期の終業式にするという新たな試みをしてみました。



まずは各自で「卒業時にこうなっていたい」という自分の姿を思い浮かべて目標を立てます。そして、学期毎に自己評価をします。提案されて決まらなかったら、図案に「星」があったので、それを利用しました。目標が達成できたら、☆を切って貼っていくのです。

真っ暗だった夜空は、学期が終わる度に☆が増え、輝いてい

きました。大きさも形も個性豊かな。一・二学期に☆をつけなかった生徒も「次は頑張らない」とつぶやき、意識の高さを感じました。そして三学期末は、全員の☆と笑顔が輝く学級目標を完成させることができました。

先日、卒業した生徒達が来て、「全員で活動していたのが懐かしい、楽しかった。」と言いました。私の思いが伝わった気がして、嬉しかったです。一人一人に所属感や満足感を持たせられる、そんな活動や雰囲気づくりを大切にしていきたいです。

(小布施中)

# 清涼談義



カット 井上小 宮坂ゆかり

## アイテムになれたら

### 三溝みつえ

四月から須坂支援学校で勤務しています。まだまだ、学校にも子どもたちにも慣れない毎日ですが、私の楽しみは、その子だけのスーパーアイテムを探ることです。

アイテムとは、コンピュータ

ーゲームの中に出てくる効果的な道具のことです。他にも、「必要なもの」という意味があります。私にも、コーヒール、眼鏡、携帯電話、家族等日常欠かせないアイテムがあります。



カクタロ だるま、緑色のグッツ、時計、本の、マン、ア

グ、電車……。これがあれば、安心できるのです。また、それを窓口に周りの人と楽しく関わることもできます。だから、私は子どもたちのスーパーアイテムをゲットしたくなります。それは、すぐに見つかる場合もあれば、探しても探しても見つからない場合もあります。大人が用意したアイテムを差し出しても、大概はずれです。

だから、本当にゲットした時はとても嬉しくなります。そして、その子のアイテムの一つに「先生」が入れたら、学校生活は一日中楽しいものになるのだらうなと改めて感じています。

(須坂支援学校)

# 編集後記

平成二十七年年度会報二二二号を発行し、無事お配りすることができました。お忙しい中、原稿をお寄せいただいた会員の皆様、心より感謝申し上げます。

多くの会員の皆様により親しみを持ってお読みいただけるように、昨年度よりカラー印刷にいたしました。いかがでしたか。感想やさらに改善すべき点など、率直なご意見をいただけましたら幸いです。何かありましたら、各委員までご連絡ください。

委員長 宮坂ゆかり(井上小)  
副委員長 西原秀明(仁礼小)  
委員 遠藤和樹(常盤中)  
小林志津代(高甫小)  
齊藤正一(東中)  
高橋美津子(旭ヶ丘小)  
田中みき(日滝小)  
筒井万由美(井上小)

平成27年度 県外視察者名簿 (敬称略)				
学校名	氏名	視察目的・テーマ・内容等	視察方面	実施時期
1 高山小	山岸 俊 樹	集団大縄跳びの指導法 八の字とび ダブルタッチ	埼玉県	5月5日
2 森上小	須山 均	コミュニティスクール先進校の視察 ●信州型コミュニティスクール実現に向けて、地域のよさを活かしていく連携の在り方 ●視察させていただく学校の様子の見学とコーディネーターにお話を聞き、公開授業等の参観をする。	新潟県方面	7月
3 森上小	服部 直 幸	●東北地方の復興状況 ●エネルギーに対する取り組みの視察	東北(福島・宮城)	8/10~12
4 井上小	小林 理 恵	音楽授業の幅を広げる。ラボラトリーへの参加。	東京	未定
5 高甫小	新井 重 則	●算数・数学の授業研究会に参加希望 ●授業改善のポイント	関東方面	2学期中
6 旭ヶ丘小	高橋美津子	授業のユニバーサルデザイン研究	筑波大附属小学校	8月29~10月
7 仁礼小	高木 学	市川伸一先生の『教えて考えさせる授業』の実践や研究のために	東京方面	2学期
8 豊丘小	中島 洋 一	学力向上に向けた取り組みとして、福井県の学校教育システムや授業の構成・工夫など、生の現場を通して学びたい。	福井県方面	11月
9 小布施中	宮坂 俊	大阪府堺市の軸松人権歴史館において、人権啓発活動や、市民の人権問題に対する意識付けの方法を学ぶ。その成果を、11月の郡研の授業に生かしたい。	大阪	8~9月
10 小布施中	清水まゆみ	音楽の指導について歌唱法・合唱・吹奏楽の指導について視察してきた。	関東方面	8月
11 高山中	中山 裕 之	広島県教育セミナー 20年間続く研究会で最新の教育(研究)を学ぶため	広島県	1月
12 高山中	松村 勉	技術家庭科 関プロ大会参加のため	山梨県	10/29・30
13 常盤中	遠藤 和 樹	「生涯スポーツや生きる力につながる授業のあり方」当該校は、主体的に生き抜く生徒の育成をめざし、研究を推進している。本年度は3年次計画の最終年度にあたるので、ぜひ視察してきた。	新潟	10月上旬
14 常盤中	小宮山 瞳	●学力向上のための手立てを学ぶ。●粘り強く学習するための授業づくりを学ぶ。	福井	未定
15 相森中	小林 里 美	県外の技術・家庭科の授業展開を学びたい	山梨	10/29・30